



がっこう  
学校だより

じゅうてんもくひょう  
重点目標

# 和の玉まるく！

2023(令和5)年  
やまとしりつしぶやしやうがっこう  
大和市立渋谷小学校

がっこう  
12月号



「スマイル100% ~つなげよう 自分のハート♡みんなのハート♡」

## 「育成することの大切さと難しさ」

今年の一年間、社会的には紛争や物価高騰、詐欺事件に闇バイト、薬物事件など暗いニュースが多くありました。しかしながら、昨今のスポーツ界は、様々な競技で日本選手の世界的な活躍が明るい話題として報じられ、私たちが前向きな気持ちにさせてくれました。これを見ている多くの子供たちの中で将来につながる夢見るきっかけとなっていると考えると素晴らしいことと感じます。

さて、その中の一つとして、サッカー日本代表チームは今ではワールドカップ出場常連国になり、優勝経験のある強豪国がひしめく予選グループでも堂々と試合を進める姿に、多くの人が勇気をもらい、また、声援を送っています。

しかしながら、ワールドカップ参加の歴史は浅く、初出場は1998年フランス大会、それまでは、どうしても予選を突破できず1993年のJリーグ発足以前は、国内の代表戦も空席の多いとてもマイナーな状況でした。

Jリーグが発足し、「ワールドカップ出場」を目的に様々な面での整備が行われるとともに、この時期から自分も関わってきた少年カテゴリーにも、ある言葉が広まったのを感じています。「選手」をはじめとした「監督・コーチ」「審判」などサッカーに携わる者の中で広まったのは「育成」という言葉でした。そして「リスペクト(尊重)」という言葉です。

当時のスポーツ界では「指導」という言葉が一般的でした。しかし、いくら「指導」しても限界がある。一方的な指導で才能を潰されてしまうこともある。広く「育成」する中で自主的に考えて「チャレンジ」できる選手を多く育てることが大切で、さらにそこで出会う仲間や支えてくれる人を「リスペクト(尊重)」しあうことが大切だと変わっていったのを記憶しています。特にサッカーというスポーツは一瞬一瞬の選手の判断と仲間との連携が何より重要で競技レベルを上げるのには、この「育成」と「リスペクト(尊重)」の考え方が全ての年代カテゴリーで必要だったのだと思います。このことが成果となり多くの人の喜びの一つになっているのが、サッカーだけではなく今の各スポーツ競技選手の活躍の背景なのかもしれません。

さて、スポーツの世界では「育成」中心となってきましたが、学校教育はどうでしょう。学校では特に、小学校段階では昔から教育の「育」に力点がありましたが、社会の変化とともに、「主体的な学び」という言葉が入ってきてからは特に顕著になり、「チョークとトークとジョークで通用する時代は終わった」という言葉を昔の先輩方が話していたのを感じています。先生は「話を聞かせる」のではなく、「話を聞こうとする子を根気よく育てる」ということになります。これは簡単そうで、とても難しく、根気と時間、目的を持って多くの人が協力して行う必要があります。今、学校では「主体的に学ぼうとする児童の姿」を大切にして教育実践を進めています。児童を中心として地域、保護者、学校が協力しながら児童の成長を目的に「育成する」ことを念頭に根気強く育てていく姿が今後も必要だと考えます。

校長

### 【学級閉鎖がありました】

先週、学級閉鎖がありました。インフルエンザと風邪による欠席でした。予防にご留意ください。